

第18期
「京都教師塾」

令和6年4月13日

塾生通信

学びの広場

April

京都教師塾通信

No.10

京都市教育委員会 教員養成支援室

第8回京都市教育学講座 講師;保護者3名【小学校・中学校・総合支援学校】 「先生を目指す塾生に期待すること ~保護者の立場から~」



第8回は、小学校、中学校、総合支援学校から3名の保護者の方をお招きしての、パネルディスカッション形式での講座でした。

それぞれの学校に通う我が子を見守る中で、子どもや学校・教師との印象的な出来事や関心事などについて、具体的なエピソードや思いを交えながらお話いただきました。学校や教師の対応に関する事例として、「発達段階に応じた教育的支援や指導方針について、

担任の考えを保護者に丁寧に説明され関心した(小学校)」「家出した生徒に、担任以外の先生が親身になって長期的に支援していただいた(中学校)」「ネームサインによるコミュニケーション支援により、世界が広がった(総合支援学校)」など、教師が目の前の子どもに熱心に支援・指導する姿をご紹介いただきました。

また、これから教師を目指す塾生の皆さんに、保護者の立場から見た教職の魅力や、どのような教師を目指してほしいか、アドバイスを含めたメッセージをいただきました。

分散会では、「保護者との信頼関係」に関する質問が多く見られました。保護者からは、子どもと保護者の関係構築は、別々に考えるものではなく、子どもに誠実に接する先生の姿は必ず保護者に伝わり、自然に保護者の信頼は得られると回答されました。子どもたちを中心に、保護者との丁寧な連携を図りながら、コミュニケーションの在り方や授業づくり、学級経営などを大切にされた地道な実践を積み重ねていきましょう。

3/20(水祝)

京都市教育学講座⑧の様子

3/25(月) 補講



私は保護者対応にすごく不安をもっている。自分の親があまり教師に対して良い印象をもっておらず、どう保護者対応をすればお互いに良い関係を築けるのかがわからなかった。しかし、今回の講座を経て、教師が保護者の方に対して弱気になってはいけないことを学んだ。生徒を大切に思っていることは保護者の方も同じであり、対立をするのではなく「一緒に生徒を育てていく」という意識が大切である。

そのためにも、しっかりと自分の「軸」をもっていることが必要であることを今回の講義で強く感じた。自分の「軸」とはどういう意図で教育を行なっていきたいのか、という考えである。前々から出てきていた「教師の行動全てに意図がある」とは、その行動に対して意図を説明できることでもあるだろう。その説明ができることが非常に重要だと私は考えている。教科指導や生徒指導でも、生徒に意図を説明する必要がある。教科指導では生徒に興味を持たせるためだったり、生徒指導では生徒の中で噛み砕いて納得させるためだったりする。その意図が生徒に伝わることで信頼関係を作っていくことができる。保護者の方であっても同様のことがいえる。保護者の方に対して、教師の行動の意図が伝わることで、よりよい関係作りができるだろう。全体会でも講師である保護者の方が、「自信のなさがあったとしても、どう自分が頑張っていくのかを保護者の方に伝えてほしい」と仰っていた。このように、どう考えてどう行動していくのかを保護者の方に伝えていく必要がある。だからこそ、自分の「軸」というものを考えていく必要がある。

しかし、自分の「軸」を決めたままにするのも良くない。教育現場も日々変わっていく中で、学び続ける姿勢が大事であることは常々言われている。自分の「軸」も固まったままではいけない。自身の経験や他の人との関わりでアップデートしていく必要がある。そうしてより自分に合った「軸」というものを見つけていくことができるだろう。

私も生徒と関わる上で「軸」というものは大切にしていきたいと強く感じている。だが、アップデートしていくことはとても難しい。だからこそ、自分の今までの固定概念にとらわれずにアップデートしながらよりよい教師になりたい。

保護者の方から直接お話を聞ける貴重な講座でした。その言葉の一つ一つが心に響いたようです。講座の前に思っていた不安は多くの塾生も同じだったと思います。その不安が少し解消されたことは、今後頑張る元気の源になりましたね。「生徒を大切に思っていることは保護者の方も同じであり、対立をするのではなく一緒に生徒を育てていくという意識が大切」そうです。この意識をしっかりとってください。そのための自分の「軸」を常にアップデートしていくのもとても良いことです。自分の成長とともに「軸」も同じく成長するはず。自信の無さを支える「頑張り」に期待しています！

～レポート担当スタッフからのコメント～

